多職種連携研修会報告

2号

茅ヶ崎市保健所地域保健課
在宅ケア相談窓口

電話：0467-38-3319
FAX：0467-82-0501

多職種連携研修会報告は、
研修会の内容やアンケート結果を参加者等に発信しています

第16回研修会「がん患者の終末期における連携を考える」が開催されました（平成30年7月12日）

研修内容

地域の多職種連携を考えていくと共に、それぞれの専門職がお互いの役割を知る機会とすることを目的として、がん患者の終末期医療の実際について、病院医師と在宅診療所医師それぞれの立場から、水沼医院院長 水沼信之先生とひきのクリニック院長 引野雅子先生に講演をして頂きました。以下、講演の概要をまとめました。

テーマ：「がん患者の終末期医療の実際～病院の視点から多職種連携を考える～」
発表者：水沼医院　水沼信之　院長
概　要：がん免疫療法について／抗 PD-1 抗体作用について／がん化学療法、免疫療法で生存期間は延長している／がんに伴う苦痛の改善には早期からの緩和療法の介入が必要である／緩和医療は入院、外来、在宅のオプションがある／茅ヶ崎・寒川地区でも緩和医療システムの構築が必要である　等

10 月にノーベル賞を受賞した本庶先生の内容を先取りして説明頂きました！

テーマ：「がん患者の終末期医療の実際～在宅の視点から多職種連携を考える～」
発表者：ひきのクリニック　引野雅子　院長
概　要：緩和ケアは医療用麻薬の調整だけではない／意思決定支援は「結論を出させること」ではない／「どこで看取るか」より「どう過ごすか」！／がん在宅ケア・緩和ケアにとっていつでも介護支援を開始できる体制にしておいてもらうことは欠かせない　等

座長は、茅ヶ崎市立病院の小林一博診療部長に務めて頂きました。講師２人の話から、最先端の治療や在宅療養での実際についてまとめていただき、学びの大きな研修となりました。

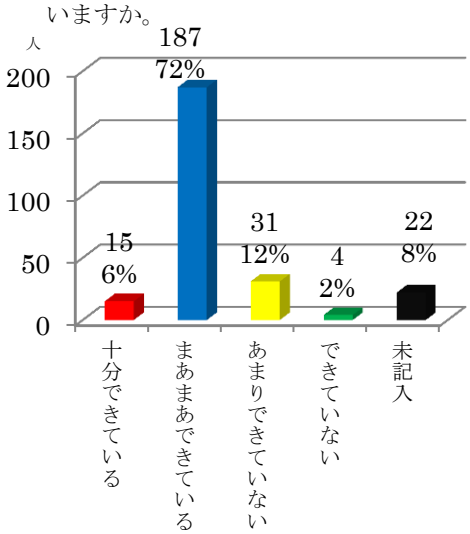
今回は、３１５名という今までの研修会の中で最も多くの参加を頂きました。

参加者からは、「連携の意識が高まっていると感じました。」「がんと診断を受けた時から早期に係る必要があると感じました。」「最新のがん治療と在宅医療が理解できました。」「内容の濃い研修でした。医療の立場から生活を支える視点に心打たれました。」等の意見をいただきました。

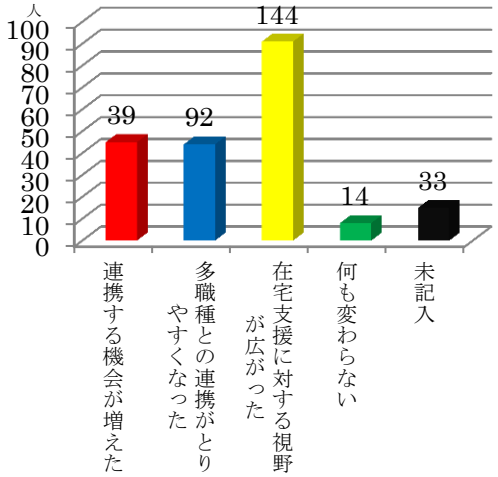
第１６回多職種連携研修会アンケート集計結果

参加者：３１５名（アンケート回収数２５９枚）

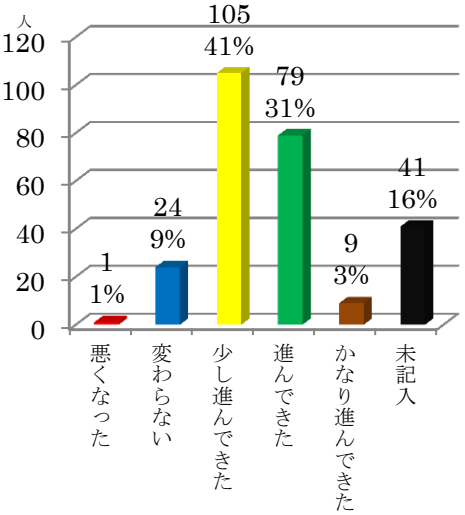
1．多職種間と連携をとることができていますか。



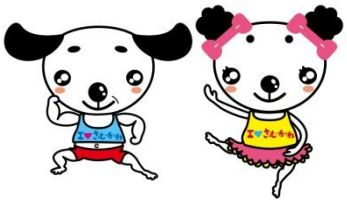
2．多職種連携研修会に参加して他職種との連携で変わったことや感じたことはありますか。（複数回答）



3．地域における在宅医療・介護の連携の現状について

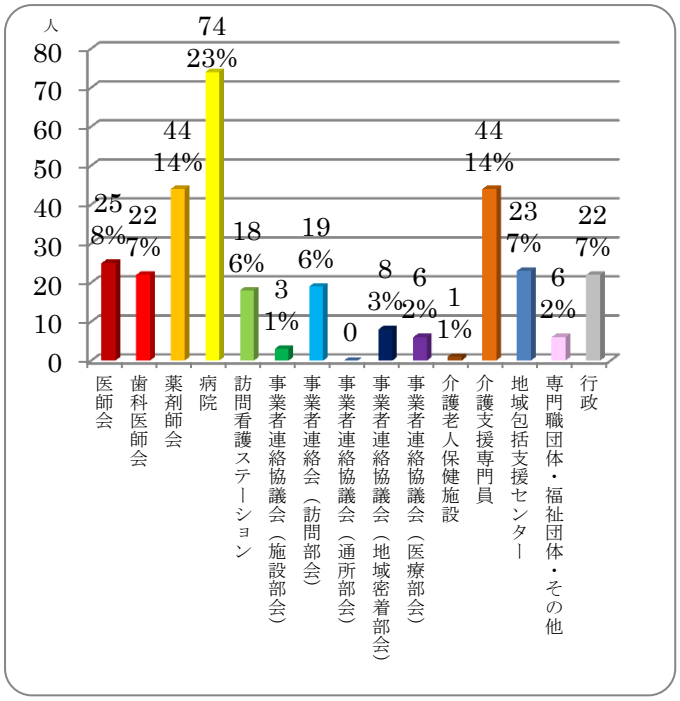


参　考

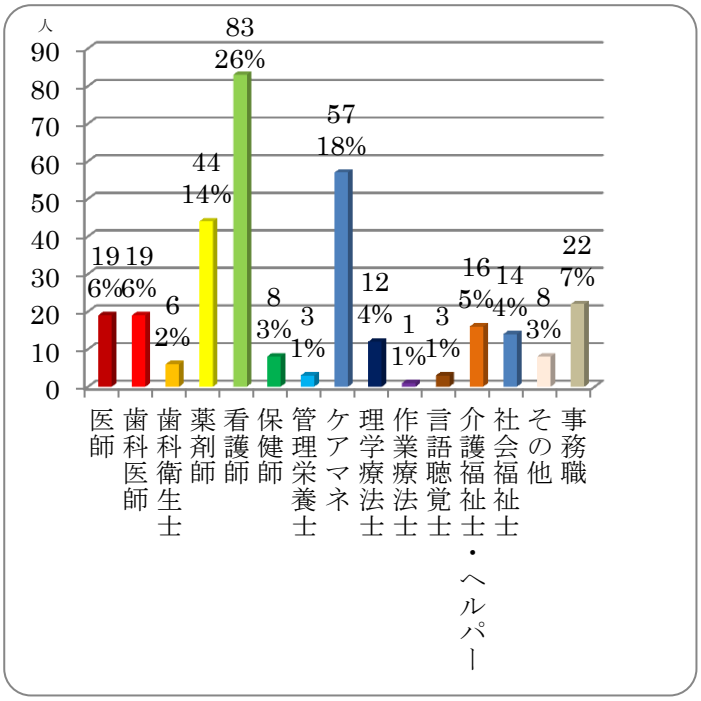


[第１６回多職種連携研修会　参加者の属性]

団体別

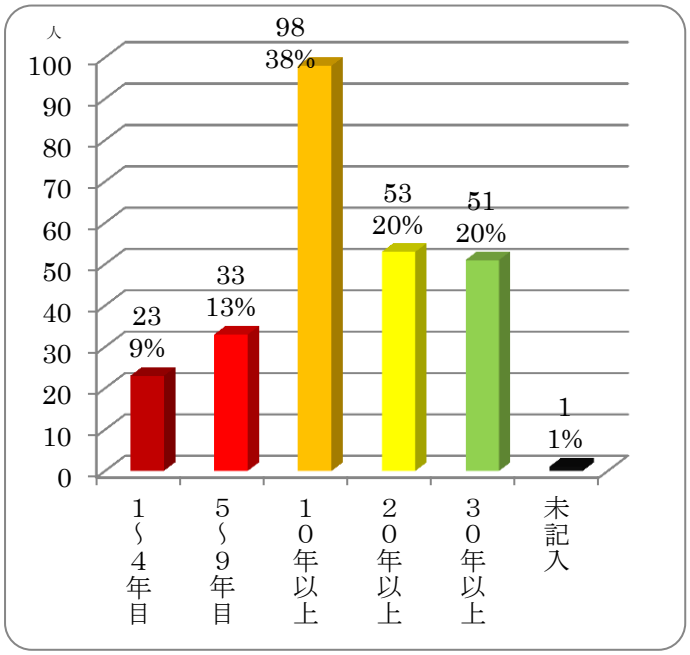
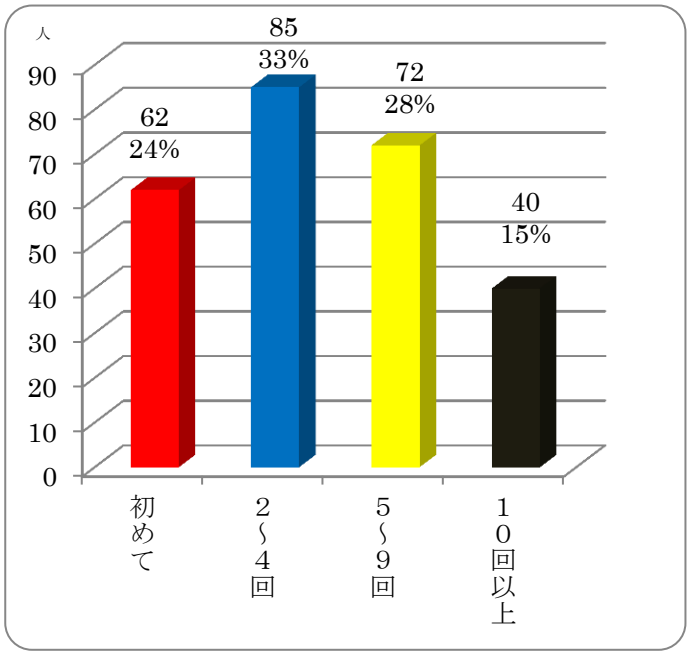


職種別



[第１６回多職種連携研修会　アンケート結果]

専門職としての総経験年数



多職種連携研修会の参加回数